

2025年度の広報活動について

公益社団法人リース事業協会

はじめに

公益社団法人リース事業協会(以下、「協会」という。)の広報調査委員会では、リース事業に関する理解促進を図るための広報活動を行っています。

近年、サステナビリティに関する対応が求められていることもあり、2023年4月に協会ホームページ上に「サステナビリティへの取り組み」に関する特設ページを開設しました。

また、経済界においてリースに関する認知度が一定程度まで高まってきたこともあり、ここ数年の広報活動では、大学生を対象としたワークショップを開催し、若年層への理解促進に力をいれています。

2023年度からは、わが国において初めて「リースを網羅的に学ぶ場」として早稲田大学商学部寄附講座を開講しています。

本稿では、協会ホームページ内に開設している「サステナビリティへの取り組み」に関するご案内および、2025年度に実施した早稲田大学商学部寄附講座の概要について報告いたします。

1. 「サステナビリティへの取り組み」特設ページ

様々な課題をかかえる現代、温暖化などの環境に関する問題、人権、限りある資源の有効利用のための資源循環への取り組みの必要性など、サステナビリティに関する取り組み

を一層進めていくことが求められています。

リース業界ではすでに各社において様々な取り組みが進められています。

協会では、リース業界が成長してきた過程をサステナビリティの視点から振り返り、改めてリース業界が社会課題にどのように貢献できるかを整理し、あわせて正会員の取組事例を公表する場を設けることを目的とし、2023年4月25日に協会のホームページ内に特設ページを開設しました。

この特設ページは、学生から様々なステークホルダーまで、どなたに対してもリース業界における取り組みが伝わるよう、わかりやすい言葉で簡潔に表現することを目的として作られています。

特設ページ「サステナビリティへの取り組み」では、以下の6つの項目でリース業界とサステナビリティへの関係を整理しています。

- ①リースとサステナビリティ
- ②リースと資源循環
- ③リースと官公庁
- ④リースと企業
- ⑤各リース会社の取組
- ⑥リース事業協会の取組

特に、「⑤各リース会社の取組」では、当協会の正会員における取組事例を「事業における取り組み」と「非事業における取り組み(寄附・ボランティア等)」に分けた一覧表(1社につきそれぞれ7事例まで)をエクセル

ファイルとPDFファイルで掲載していますので、リース会社名・取組のカテゴリー（環境・社会・経済・その他）・地域等で検索・ソートをすることができます。

当協会正会員の取組事例調査は、毎年1回実施し、取りまとめ結果を8月にホームページ上に公開します。

*「サステナビリティへの取り組み」特設ページ
(<https://www.leasing.or.jp/sustainability/>)

2. 早稲田大学商学部寄附講座概要

全14回の講義のうち、第1回では講座に関するガイダンスとリース概論の講義を行うとともに、第2回以降の講義内容を紹介しました。

第2回・第3回ではリース入門として、リースに関する基本的な用語・知識・情報をお伝えしました。

多くの講義では、全100分の講義時間を2コマに分け、リース業界を取り巻く多様なステークホルダーおよびリース会社の役職員を講師にお招きして、様々な角度からリースに関する講義をしていただき、第12回では、協会会長の久井大樹氏（三菱HCキャピタル(株)社長）にもご登壇いただきました。



2025年度 秋学期 早稲田大学商学部寄附講座概要

| | | |
|---------------|---|--|
| 科目名 | 公益社団法人リース事業協会寄附講座 サステナブルな社会を創るリース | |
| 担当教員 | 新井 剛 教授 | |
| 学期等 | 秋学期（2025年10月7日～2026年1月27日） 火曜日3限 13:10～14:50（100分授業）計14回 | |
| 講義形式 | 対面による講義 | |
| 配当年次 | 1年生以上（オープン科目：他学部の学生も受講可能） | |
| 平均出席者数 | 134.6名 | |
| 履修登録者数合計：176名 | 学 年 | |
| | 1年生：19名（10.8%） 2年生：72名（40.9%） | 3年生：45名（25.6%） 4年生以上：40名（22.7%） |
| | 学 部 | |
| | 商学部：133名（75.6%） 政治経済学部：10名（5.7%） 教育学部：9名（5.1%） 国際教養学部：5名（2.8%） 社会科学部：4名（2.3%） 法学部：4名（2.3%） | スポーツ科学部：3名（1.7%） 文化構想学部：3名（1.7%） 人間科学部：3名（1.7%） 文学部：1名（0.6%） 基幹理工学部：1名（0.6%） |

| 回数 | テーマ | 講師（敬称略） |
|----|--|---|
| 1 | 講義ガイダンス | 商学部教授 新井剛 |
| | リース概論 | 公益社団法人リース事業協会 常務理事・事務局長 加藤建治 |
| 2 | リース入門① | 公益社団法人リース事業協会 常務理事・事務局長 加藤建治 |
| 3 | リース入門② | 公益社団法人リース事業協会 常務理事・事務局長 加藤建治 |
| 4 | リース会社の実務① 自動車リース | 自動車リース委員会委員長 オリックス自動車株式会社 執行役員 篠崎典子 |
| | 再エネビジネス | 三井住友ファイナンス&リース株式会社 常務執行役員環境エネルギー本部長 浅井淳史 |
| 5 | リース会社の実務② 国際リース | 国際委員会副委員長 MUFGファイナンス&リーシング株式会社 海外企画部部长 石鍋清和 |
| | 航空機リース | 東京センチュリー株式会社 常務執行役員スペシャルティ営業第三部門長補佐（兼）航空機営業部長 植田吉洋 |
| 6 | 地方創生とリース | りそなリース株式会社 常務取締役営業開発部担当 浅香哲也、経営企画部兼人事総務部付部長 小岩井浩幸 |
| | 地方公共団体とリース会社との連携事例 | 入間市長 杉島理一郎 |
| 7 | 物流法人から見たリースの活用例 | ロジスティード株式会社 営業企画部部长 戸次恵久 |
| | ベンチャー企業とリース会社の連携 | ZERO株式会社 代表取締役 沖杉大地 |
| 8 | リース会社のサステナビリティ活動Ⅰ | 芙蓉総合リース株式会社 経営企画部CSV推進室長 水谷高 |
| | リース会社のサステナビリティ活動Ⅱ | 昭和リース株式会社 営業本部営業統括部統轄次長 松村峻 |
| | グループワーク テーマ：投資家へ「当社がサステナビリティへの取組を進めることの意義」を説明する | |
| | リース事業協会の社会貢献活動 | 公益社団法人リース事業協会 企画部部长代理 廣澤且巳 |
| | 課題レポートの説明 | 公益社団法人リース事業協会 常務理事・事務局長 加藤建治 |
| 9 | リースの会計・税制 | 会計税制委員会委員長 東京センチュリー株式会社 取締役専務執行役員経営企画部門長（兼）経理部門長 平崎達也 |
| | リース会社の法務 | 法制委員会副委員長 みずほリース株式会社 理事法務コンプライアンス部部长 岸忠良 |
| 10 | リースと環境 | 環境委員会副委員長 JA三井リースアセット株式会社 リースアップ業務部長 三廻部篤史 |
| | リース会社から見たリース | 株式会社パンフィックネット 執行役員ITAD事業部 濱崎友裕 |
| 11 | 産業政策とリース | 経済産業省商務・サービスグループ商取引・消費経済政策課長 乃田昌幸 |
| | 環境政策とリース | 環境省大臣官房環境経済課環境金融推進室室長補佐 和田口達也 |
| 12 | リース産業の将来展望 | 公益社団法人リース事業協会会長 三菱HCキャピタル株式会社 代表取締役 社長執行役員 久井大樹 |
| 13 | ワークショップ テーマ：「リース業界あるいはリース会社の魅力をSNSで発信」 アウトプットとして、ワークシートへ作品記入 | 広報調査委員会委員会 ・ JA三井リース株式会社 経営管理部コーポレートコミュニケーション室長 高橋玲子、経営管理部コーポレートコミュニケーション室 一澤英里里 ・ NECキャピタルソリューション株式会社 人事総務部 栗原瑠莉 ・ NTT・TCリース株式会社 総務人事部総務人事部門採用育成担当 飯沼凌也、経営企画部企画部門経営戦略担当 岩上泰輔 ・ 三井住友トラスト・パナソニックファイナンス株式会社 不動産金融ソリューション部 竹内智哉、人事部 堤晃汰 ・ 三菱HCキャピタル株式会社 人事部採用グループ 小野希美 ・ リコーリース株式会社 環境・不動産営業本部環境・エネルギー営業部営業一課 福岡宏大、環境・不動産営業本部環境・エネルギー営業部営業一課 佐藤大登 ・ 進行：公益社団法人リース事業協会 企画部部长代理 廣澤且巳 |
| 14 | 課題レポート表彰 受賞者プレゼンテーション 総評 講義の振り返り | ・ 商学部教授 新井剛 ・ 広報調査委員会委員長 JA三井リース株式会社 経営管理部コーポレートコミュニケーション室長 高橋玲子 ・ 公益社団法人リース事業協会 常務理事・事務局長 加藤建治 |

1回の講義を2コマに分け、各界から多彩な講師陣にご登壇いただいたことで、受講生も集中力を維持しながら、興味深く受講することができたと考えています。

また、学生同士が交流し、主体的に参加することができるワークショップは、毎年、学生に大変好評ですので、今年度も第13回にワークショップ形式での講義を設けました。

今年度のワークショップは課題レポート提出後の開催であったため、ワークをスムーズに行うためのアイスブレイクの時間を冒頭に設けました。アイスブレイクのテーマは「課題レポートのテーマをどう探したか」。初対面であっても、お互い情報交換をする時間を経ることで、次のワークへスムーズに移行することができました。

ワークショップの構成は下記2部構成で実施しました。

①リース会社社員からの説明と質疑応答

当日参加している受講生を10グループに分け、リース業界・リース会社の魅力（仕事、やりがい、職場、会社としての働きやすさ）について、リース会社6社10名の担当者がそれぞれ担当するグループの学生に説明したほか、実際に一日をどのようなスケジュールで働いているかをご紹介いただきました。

②グループワーク

「リース業界またはリース会社の魅力をSNSで発信する」をテーマとするグループワークを実施し、その成果として、グループ毎にXを想定したポスト案（140文字以内）を作成し、一部作品を講義内で発表しました。

例年、ほとんどの作品はターゲットを「就活生」としていますが、今年度は、投資家や中小企業・一般ユーザーといったターゲット設定も出てきており、リース（会社）の魅力を学生ならではの言葉・視点で伝える作品となっていました。

本講座は2単位を取得することが出来る講座で、成績評価は、課題レポートでの評価60点および平常点（出席・講義後レポート）での評価40点となります。

単位取得に必要となる「課題レポート」の概要は下記のとおりとなります。

①テーマ：「新しいリースの形」

②内容：新しいリースの形やサービスを考え、そのターゲットおよびサービスの仕組みを解説し、そのサービスに関するマーケットの規模（現状と将来予測）、当該マーケットにリースを普及させるためのポイント等をわかりやすく簡潔に考察する。

③字数：1,000字以上（A4 2枚程度・図表使用可）

④締め切り：2026年1月7日（水）

⑤賞：最優秀賞1名、優秀賞1～3名、佳作1～5名

また、生成AIの普及により、これを使用する学生も多くいることから、今年度の課題レポートでは、早稲田大学における生成AIの利用に関する取扱い（「生成AIの利用に関する取り扱いと注意事項」商学部2025年10月8日）に準じて、どのように生成AIを利用したかをレポートに明記することで、生成AIの利用を認めました（提出されたレポートのうち、生成AIを使用したレポートの割合は全体の約7割となりました）。

課題レポートは、合計151レポートが提出されました。

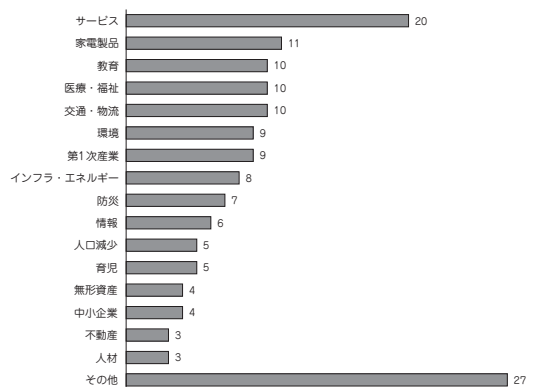
公平性を担保するために、課題レポートには受講者の個人情報は一切含まれない状態で早稲田大学商学部事務局からご提供いただき、評価を行いました。

レポートは、協会の広報調査委員会・正副委員長5名および協会事務局により評価を行い、新井教授へ提案し、受賞者を決定しました。

評価は下記の項目で行われました。

- ①独創性
- ②実現性
- ③経済効果
- ④社会課題に対する効果
- ⑤サプライチェーンとの協働性

2025年度 課題レポートの対象分野



その他：新リース会計基準、獣害、ペット、楽器、サークル活動など

*2025年度秋学期早稲田大学寄附講座に関する情報は当協会ホームページの「早稲田大学寄附講座」へ掲載しています。(https://www.leasing.or.jp/workshop/index.html)

おわりに

今年度、初めて課題レポート作成時に生成AIを使用することを認めたことで、学生が様々な形（テーマの探求・レポートの校正・図やイラストの生成等）で生成AIを使用している状況を把握でき、改めて学生の間で生成AIの利用が浸透してきていることを実感しました。

また、今年度の受賞レポートのテーマ・内容を分析してみると、自然・農業・林業・一次産業といった分野が多いことが伺えます。

このことはそれだけ、この分野における社会課題が大きいものであるということ、すでに多くの学生が認識されていることを表しているのではないかとということと、それらの課題にリースが貢献できる可能性について、若い世代の柔軟な考え方や新しい着眼点で繋ぎ、示してくれているものであると感じています。

受講者の学びに対する真摯な姿勢は、講義の準備をする協会スタッフだけでなく、講義を担当いただいた外部講師やリース会社の方に新鮮な驚きとともに、同じ時間をともに学べたことへの満足感を与えてくれました。

受講生の将来にこの講座での学びがお役に立てることを願っています。

最後となりましたが、新井教授によるご指導および早稲田大学商学部事務局スタッフの方々によるサポートにより全講義を円滑に進めることができましたことへ、御礼申し上げます。

あわせて、講師をご担当いただいた企業および官公庁・関係者の皆様・リース会社関係者の皆様、お忙しい中、より良い講義とするためにご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

広報調査委員会では、本寄附講座が受講生に対し、リースに関する理解促進効果があったと評価し、来年度も寄附講座を開講します。

関係各位におかれましては、引き続きご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

早稲田大学商学部寄附講座におけるワークショップのアウトプット（SNSへのポスト作品）および課題レポート「新しいリースの形」に関する受賞者とテーマ・概要、受講者の感想、担当講師の感想は、本稿の最後に【参考資料】としてご紹介しています。

【参考情報】 広報調査委員会委員会社

JA三井リース(株)、東京センチュリー(株)、芙蓉総合リース(株)、みずほリース(株)、三菱HCキャピタル(株)
NECキャピタルソリューション(株)、NTT・TCリース(株)、MUFGファイナンス&リース(株)、オリックス(株)
昭和リース(株)、三井住友トラスト・パナソニックファイナンス(株)、三井住友ファイナンス&リース(株)
リコーリース(株)、りそなリース(株)

以上14社

【参考資料】

第13回ワークショップ SNSへのポスト作品（一部抜粋）

ポスト

リース業界、地味だと思ってない？
実は、
・企業の設備投資を支える
・社会課題を裏から解決してる
・モノ×専門性でキャリアが積める
しかも街に出ると「これもリースか！」ってなる。
成果が見える仕事、結構アツい。

ポスト

[投資家必見！！ 今、リースがアツい！！]
・リース事業で安定×新規事業で成長
・ESGの先駆者
・高いサステナビリティで持続可能な社会
・金融×モノで差別化されたビジネスモデル
・景気変動への耐性
投資するなら今しかない！！急げ！！
#リース #投資

こだわりポイント

おすすめに出てきても見やすいようにしました！
魅力を箇条書きにすることで、読みやすくしました！

こだわりポイント

投資家の目にとまるように工夫

ポスト

[実はすごい！注目すべきリース業界]
・社会を支える安定したビジネス
・専門性が身につく、キャリアの幅が広い
・社会課題解決に貢献できる
・フレックスやリモートで働きやすい
成長も安定も大切にしたい就活生におすすめ！

ポスト

将来やりたいことがまだ決まっていなくても、専門スキル研修を受けながら働けるのがリース業界の特徴です。
幅広い業種と関わりながら経験を積み、休日や制度も整っており、安心して働き続けられます。我々といっしょにリース業界で働きませんか？

こだわりポイント

ターゲットを就活生に絞って考えました。
目をひくキャッチコピーと業界の魅力のわかりやすい説明、事業内容と働きやすさのどちらも紹介しました。

こだわりポイント

就活生向けで目線をそろえて考えました。
リース業界の良さの幅広い業界と関われることと、ホワイトであることをまとめました。

課題レポート：受賞者およびテーマ・レポート概要一覧

| | 氏名 | 学部 | 学年 | テーマ・レポート概要 |
|------|-------|--------|----|---|
| 最優秀賞 | 大竹 快青 | 国際教養学部 | 4 | 【インドの小規模零細農家を対象とした【スマート農業リース・プラットフォーム化による農業のサブスクリプション化事業】のご提案】 リースの機能に着目し、社会課題の解決を目的とした協働モデルを示したものである。課題解決にあたって想定されるリスクについても整理されており、それぞれに対する解決策が丁寧に考察されている。 |
| 優秀賞 | 秋元 勇作 | 商学部 | 4 | 【土壌そのものの性能を一定に維持・補充するサービス】 土壌のリースというこれまでにない視点と具体的なビジネス展開が考察されていることに加えて、資源循環の視点でも考察がされている。 |
| 優秀賞 | 清水 咲希 | 商学部 | 2 | 【放置竹林問題の解決に向けた新たなリースサービスの提案】 放置竹林問題の解決策として、リースを活用した持続可能なビジネスモデルが具体的に考察されている。 |
| 優秀賞 | 元 啓輔 | 商学部 | 2 | 【被災地と若者をつなぐ「一次産業参入スターパック・リース】 リースを金融的な側面だけではなく、地域のステークホルダーをつなぐソリューションであるとする視点により、被災地復興の課題解決策が具体的に考察されている。 |
| 佳作 | 砂原 幸生 | 政治経済学部 | 4 | 【「資源の呪い」をリースで断ち切る！】 資源産出国の課題をリースで解決するという視点、具体的なリースの仕組み、普及ポイントなどが考察されている。 |
| 佳作 | 中村 克 | 政治経済学部 | 3 | 【地方新聞社の事業変革を支える3つのリースサービス】 地方新聞社の事業環境に着目し、顧客と伴走する3つのビジネスモデルが考察されている。 |
| 佳作 | 竺原 早紀 | 商学部 | 4 | 【変わる脅威に、変わる防御。守る力をあらゆる企業へ「サイバー防御サービス」のリース】 企業の重要課題の解決策が具体的に考察されていることに加えて、リースの機能に着目した二次リースモデルが提案されている。 |
| 佳作 | 阿部 和心 | 商学部 | 1 | 【法人向けグリーンリースの新潮流「Carbon Loop Green】 リースの循環機能に着目したビジネスモデルが考察されていることに加えて、CO ₂ 吸収、広報の側面からも考察されている。 |

受講者の感想（一部抜粋）

出典：「学生授業アンケート」 早稲田大学商学部事務局

- 色々な会社の方の話を聞くことができた点が有意義だった。
- 実際のリース会社の方、またリースを受けている企業の方からお話を聞ける点が有意義だった。
- リース業界について興味を持てた。
- リースという事業をより深く知れた。
- なかなかこういったリースに特化したお話を聞く機会はないので非常に貴重な経験となった。循環型社会の一端を担うような、社会的に意義のあるビジネスであることを知り、リース業界に興味を湧いた。
- グループワークや最終課題で新しいリースの形を課題として提示するところは、聴講者の参加と自由な発想を促す有意義な機会であったと考える。
- グループワークを通じてどういう考え方をすればさらに学びを深めることができるのか、他の学生から学ぶことができた。
- リース業界の最前線で活躍するたくさんの方々の企業の方々に貴重なお話を伺えた点が非常に有意義だった。
- リースが金融としての役割だけでなく、あらゆる業界と接点をもてることを多角的に説明していた点は有意義だと感じた。質問がオンラインで行える点は有意義だと感じた。
- 就活を控えている学年であり、リースの仕組みのみならず業界についても詳しい説明があり、業界への興味になった点がとてもよかった。また、レポートについては発想力の足りなさを感じたため、身の回りにもっと目を向けるきっかけになった。
- なかなか聞けない実務家の話が聞けてとても貴重だった。
- グループワークがよかった。
- 実際にリース企業に勤めている方々が登壇してくださり、現場目線での話を聞くことが出来たことが有意義だった。
- 普段話を聞くことができないような立場におられる方々のお話を聞くことができる機会が多くあるという点が最もこの授業で有意義なことだと感じている。
- とても有意義な授業有難う御座いました。今まで全く知らなかった新たな産業について学びを深めることが出来た。最後の授賞式に関して、受賞者の方々それぞれが、ただ利益を産むためだけのシステムではなく、世界の課題、問題を解決し、企業にもペルソナにも利益をもたらすというものを説明されており、とても納得し、自分もこのような考えをできるようになりたいと考えた。

（授業形態について）

- この講義の1番の武器である、実際の企業様からお言葉をいただける、また質疑応答が可能な点は対面だからこそ生きるものだと考える。
- 毎回違うゲストスピーカーがこの講義のストロングポイントのひとつとも言えるので対面形式がベストだと思う。
- 実務家の方々の話を直接聞くことができとても勉強になった。
- グループワークの回が特に楽しく、能動的に講義に参加できていたと自負している。レクチャーを少し減らしてでもグループワークの回数を増やすのが良いのではないかと考える。
- 実際に企業の方と直接お話をお聞きできたのがとても良かったので、対面形式で良かったと思う。

担当講師の感想（一部抜粋）

出典：「講師アンケート」公益社団法人リース事業協会

- 具体性かつ一定の理解度からくる質問が上がっており講義の意義を感じた。
- 想像以上のレベルの高さに驚かされた。当日の質問も的を得ており事前準備と講義に臨む姿勢の良さも見取れた。講義後のレポートから理解力と文章力に感心した。そして何より「リース会社が金融の枠を超えて事業をやっていることがよくわかった」との声が多いたへん嬉しく思った。
- 講義後のレポートからも、リースに対する理解度がとても高いことが伝わってきた。
- 講義中の学生の姿勢、ご質問共に、非常に高いレベルだと感じた。社会的な目線を持っている質問が多く、100%良い意味で真面目な学生さんが多いと感じた。
- リースはモノを貸すだけではなく、環境貢献していることも理解してもらえた（講義後レポートも環境貢献の感想が多かった）。
- 一見目立つ取り組み事例に関心が向いてしまうことはやむを得ないものの、実際の業界全体の取組は、というとうもう少し規模の小さな取組が主体となっていることを考えると、事業イメージと実態のギャップを生じさせてしまうのかな、とも感じた。
- BtoBの事業が主のリース会社の知名度は学生の皆さんにとっては決して高いとは言えない中で興味を持ってもらったことに心より感謝申し上げます。
- 学生の皆さんが非常に理解度高く、熱心なのに感心した。寄附講座を続け、学生の関心をリースに向けてほしい。
- 私自身も勉強になりましたので、引き続き寄附講座は開設していただきたいと思う。

（ワークショップ）

- ワークショップではリース業界の魅力を多角的に捉えようとする姿勢が見られた。中でも、リース会社が扱う商材の幅広さや多様な提案を通じて社会に貢献できる点に強い関心が寄せられ、「可能性が無限大で課題レポートの作成も楽しかった」という声があがった。また、他の金融業界のプレイヤー（銀行等）との違いについても興味を示す学生が多く、リース会社の具体的な業務内容にとどまらず、社会貢献度の高さや働きやすさに対しても強い関心を寄せている点が印象的だった。
- リースに関する質問を多数いただき、熱心に受講されている学生が多い印象を受けた。
- 想像以上にグループの皆さんが前向きにワークに取り組んでいたのが驚いた。講師の説明に対する質問を積極的にいただき、「リース業界で働いて得られるスキル」や「リース業界を志望したきっかけ」「リース業界に入った後に感じたギャップ」などの質問を受けた。
- ワークでは積極的な姿勢が見られた。福利厚生や働きやすさだけでなく、成長もできる環境を求めている様子だった。
- 学生にとってリースとは馴染みないものである中、様々な業界やアセットに関われること、企業の成長を支えている存在であること等、大事な部分を理解できている学生が多くいた。数人の学生に受講の経緯について聞いてみた際、リースに興味があるというより、実際の企業の人がある講義だから等の理由が挙げられていた。それでよいと思っている。リースを知らなかった、興味なかった学生も偶発的に本講義を受講し、初めてリースと出会う、そんな学生が生まれる入口として意義のある講義だと思う。
- 業界に関する理解度が高く、グループミーティングでも積極的に議論を行っている姿が非常に印象に残っている。学生目線として福利厚生や働き方に目を向けがちであった印象だが、一方でリース会社の事業展開の幅広さや、モノ×金融という特異性に対して興味をもっていた学生も多くいたので非常に有意義な時間だった。
- 事業内容や社会的意義に関する質問も多くいただき、マクロ的な視点で講義に臨んでいたと感じた。